

アフリカ カメルーン

学校名 サンルナ小学校（「バフ・トレーニングセンター」内）

校舎建設完成年月 2013年6月

開校年月 2015年9月

教育内容

国規定のカリキュラムを幼稚園から小学校6年生まで教える。9月始業、6月修了。

概要

1995年より、女性の経済自立支援とエイズ予防教育促進のために、北西州バフ村にトレーニングセンター建設を計画。WFP カメルーンのメンバーとその協力者達が資金を募り、日本からの支援を得て、2013年6月に完成。地域の要望があり、2015年9月サンルナ小学校開校。



教師と児童たち

進展状況

【2017-2018】

政情不安のため、バフ村に位置するすべての学校が閉鎖され、サンルナ小学校も2018年10月に休校となった。

児童数	幼稚園	1年	2年	3年	合計
2017	12	1	6	—	19
2018	—	1	2	5	8

初等教育支援：小学校運営と運営支援

アフリカ エチオピア

ノン・フォーマル教育子供支援プログラム 初等教育クラス「ワン・ホープ・ガーデン」運営

概要：1997年、首都アジスアベバ市ワレダ10地区で、貧困のため就学年齢に達しても学校に行けない児童のために無料の識字教育を開始したのが始まりである。2001年に政府より初等教育学校として認可された。3年間教育した後、制服・学用品を支援し、アジスアベバ公立小学校の4年生に編入させてきた。公用語のアムハラ語、算数、英語、社会科学、美術、音楽、体育を教えた。2003年より「ワン・ホープ・ガーデン」に通う貧困家庭の児童の学費を里親制度で支援している。

エチオピア政府が普遍的初等教育の達成に取り組んできた



最後の児童たち

結果、7歳の就学年齢に達した子供はすべて公立の小学校に入学するという方針がだされた。それに伴い「ワン・ホープ・ガーデン」のノン・フォーマル教育の使命が終了することになった。2017年6月、18人の3年生を公立小学校の4年生に編入させることで初等教育クラスを終了した。

アフリカ リベリア

託児所・幼稚園・小学校「ピース・ハナ・スクール」運営支援

概要：1998年9月、政府の認可を受け、首都モンロビア市内の貧困地域に開校。託児所・幼稚園は、3～6歳の児童を対象に、基礎的な読み書き、歌、スポーツ、遊び、日本語、聖書などを教えている。

2002年、小学校コースを開校。教育省が定めたカリキュラムに沿った教科と外国語（日本語）に加えエイズ予防教育、エボラ対策のための衛生教育、家庭教育、道徳教育も実施。

学校は9月開始、7月修了。

学校行事などを通じて、PTAや地域の人々とも交流している。

進展状況

【2017】

- エボラ感染拡大時に子供達はおもちゃに触ることができなかったため、子供達の心のケアも兼ねて音の出る絵本、ぬりえセット、ぬいぐるみを日本から持参して1月に寄贈。あわせて消毒薬、虫除け用品なども寄贈。



日本からの支援物資を寄贈

- 教室の壁がブロックになり、屋根の改修工事も実施。
- 地域の学校対抗スピーチコンテストで当校の子供達が優勝し、学校のイメージアップになった。
- 小学生高学年にはコンピューターの授業を開始。

【2018】

- 教室の床をセメントで張り、イス・黒板・教室の仕切りの新設、壁の塗装、トイレのパイプ修理などを実施。
- 運動会やスポーツ大会などの学校行事に地域の子供達を招待することが、学校のPRと地域の交流に役立った。

児童数	託児所	幼稚園	小学校	合計
2017	40	18	51	109
2018	31	15	66	112

アジア



カンボジア

【対象】 タケオ州のワットアン中学校とその他の小学生から高校生までの孤児・片親・貧困家庭の児童・生徒

【支援期間・金額】 年間 18,000 円を支援。100 ドル分を里子へ支援し、残りは経費。(レートにより変動あり) 100 ドルは 3 回に分けて支給。

【開始年度】 1996 年

【里子数】 (2017) 139 (2018) 76 【里親数】 (2017) 119 (2018) 68



タイ

【対象】 メーホンソン県バンファイシン学校の中学 1～3 年生と同校を卒業した高校 1～3 年生

【支援期間・金額】 中学生は 1 年間 15,000 円 (事務費 3,000 円含) を 3 年間。寄宿舎代、制服代、文房具代、帰省交通費、散髪代などを支援。

高校生は 1 年間 27,000 円 (事務費 3,000 円含) を 3 年間。学費、交通費などを支援。

【開始年度】 (中学生) 2000 年 (高校生) 2018 年

【里子数】 (2017) 52 (2018) 61 【里親数】 (2017) 50 (2018) 55



ネパール

【対象】 学習意欲があるが経済的に困窮したエカタアカデミーの児童・生徒

【支援期間・金額】 1 年間 12,000 円を学費・教材費として支援

【開始年度】 2011 年 1 月

【里子数】 (2017) 80 (2018) 78

【里親数】 (2017) 80 (2018) 78



ミャンマー

【対象】 小中高生、大学生

【支援期間・金額】 年間 15,000 円 (事務費 3,000 円含) を大学を卒業するまで支援。

医・歯学生は年間 63,000 円 (事務費 3,000 円含) を 12 回に分けて支給。

【開始年度】 1997 年 11 月

【里子数】 (2017) 259 (2018) 263

【里親数】 (2017) 240 (2018) 245



ラオス

【対象】 ビエンチャン県ハーサイフオン市のセンスリー小学校の児童

【支援期間・金額】 1 年間 1 人 12,000 円で授業料一部負担

【開始年度】 2009 年 3 月

【里子数】 (2017) 12 (2018) 20

【里親数】 (2017) 12 (2018) 18

アフリカ



エスワティニ (旧スワジランド)

【対象】 孤児や貧困家庭の小学生から高校生まで

【支援期間・金額】 1 年間 15,000 円を最低 2 年間

【開始年度】 1997 年 1 月

【里子数】 (2017) 57 (2018) 57

【里親数】 (2017) 57 (2018) 57



エチオピア

【対象】 ワン・ホープ・ガーデン (小学校) に通っていた児童

【支援期間・金額】 毎月 3,000 円で 1 年間 36,000 円。12 年生まで支援。

【開始年度】 2003 年 2 月

【里子数】 (2017) 20 (2018) 20

【里親数】 (2017) 20 (2018) 20

識字教室支援

アジア バングラデシュ

識字教室運営支援

概要：オールドダッカ地区スラム街マジッド・サルディ・コミュニティに現地女医が開設した無料診療所の中の教室にて、スラム街に住む母親を対象に2008年1月に開講。母親が教育を受けていないため、薬の与え方を誤り治療効果が出ないことから、母親対象の識字教室が必要と考えた。学校に通えない子供たちも通ってくるようになったことから2015年に子供のクラスを新設した。授業料は無料。

【母親対象の識字教室カリキュラム】

- ベンガル語、数字、時刻、計算、生活に密着した単語等の読み書き
- 私達の生活：家族、親戚、友人、食事、洗濯、料理、買い物等に関する絵を見ながら説明文字を読み、出てくる単語や会話を覚える
- 私たちの社会：学校、市場、役所、病院、モスク、銀行、仕事場等に関する絵を見ながら単語、説明文字を読み、出てくる単語、会話を覚える

各クラス週5日90分で1年間教える。

教育を受けていない女性たちが小学1年生レベルの読み書きができることは現地では画期的なこと。

【子供のための識字教室】

小学校1年から5年生までの児童が午前9時から午後12時まで毎日学ぶ。授業の後、スラム街の貧困家庭の子供達のため、栄養を考慮した給食を提供。定期的に健康診断を行い、栄養剤も補給している。必要な子供には、回虫の駆虫剤、ビタミン剤、皮膚病の薬、注射薬、抗生剤なども投与する。

進展状況

【2017】

- 中級コースの母親のうち数名は卒業後就職することができ、生活が改善できたと喜んでいた。

【2018】

- 勉強している婦人たちは、毎日働きながら子供の面倒や食事の準備もしなければならぬため、定期的に集まること



給食をとる子供達

が難しい状況。また、理解度にも大きな差があり、最初は出来る人と、遅れている人と2組に分けていたが、先生が1人であり時間的に難しいことなどから、一緒にやることになった。そのため、遅れている人が追いつけるように何回も繰り返してやっており、進展のスピードは遅くなったが、出来る人はますます自信が出来、遅れている人に教え、助けるようになった。

- 婦人達は、文字が書け、読めるようになり、計算もできるようになることで、今までは家政婦が主な仕事だったが、商店や衣類工場など働ける場が広がってきた。子供にも少しは教えることができるようになった。
- ダッカの貧しい地域では多くの子供が学校にも行けず働いていて、病弱な子供も多いが、この教室に通う子供たちは基礎的な勉強もでき、身体的にも健康になっていくので親達から大変感謝されている。
- ユニセフなどから保護されていた4人の子供たちを受け入れた。
- この教室を卒業した子供達は職業訓練学校などに入学できるようになった。

生徒数	子供	母親初級	母親中級	合計
2017	30	7	5	42
2018	30	15		45

アフリカ エチオピア

識字教室「ワン・ホープ・ガーデン」運営

概要：1997年から2000年まで実施していた女性のための識字教室を、政府から要請があり、首都アジスアベバ市ワレダ8地区の「ワン・ホープ・ガーデン」内で2014年に再開。1年間で、アムハラ語、基礎算数、基礎英語のほか、家族計画、モラル教育、育児、ビジネスの基礎知識についても学ぶ。週2回午後90分の授業を実施。

2016年度から性別・年齢にかかわらず学びたい人々を受け入れている。

進展状況

【2017】15人の成人女性・児童が学び、10人修了した。

【2018】18人の成人女性・児童が学び、10人修了した。

参加者の喜びの声

「地方にいる親戚から送られてくる手紙が読めるようになったが、自分で書くことはまだできないので、継続して学びたい。」

「携帯電話が使えるようになった。」

「これまで物売りの仕事をする時誰かいないとお釣りの計算ができなかったが、今は一人でできるようになった。」

